

学校設定科目「論理国語」を実施しています。

10月19日（木）5時間目、埼玉県立熊谷高等学校の本校学校視察の一環として、SSH学校設定科目「論理国語」（国語科 鈴木康弘教諭担当）の公開授業が4年C組（高校1年生）で実施されました。

「論理国語」（4年次5単位）は、SSH第2期の研究開発課題「中高一貫教育を活かした探究力・論理力を育成するカリキュラム開発」の「論理力」（相手の主張の筋道を読み解き、自分の考えを整理して伝える力）を育成することを目的とした科目で、今年度4月より新設されました。

この「論理国語」という名称は、高等学校の次期学習指導要領（2022年度から年次進行で実施）における新科目として開設が予定されているものであり、本校では、5年間も先取りして取り組み始めました。

「論理国語」の授業では、LTT（ロジカルトレーニングタイム、本校生徒が命名）としてロジカルトレーニングを定期的に行っています。今回の授業では「論証図（根拠と結論の関係性を図式化したもの）」の書き方を鈴木教諭が講義しました。

実習の時間では、生徒たちは具体的な文章をパーツ分けし、結合論証、合流論証のどちらに当てはまるか考え、論証図を書く練習を行いました。グループで話し合いながら、自分の論証図の構成を積極的に説明し合っていました（アクティブ・ラーニング）。論証図トレーニングでは、評論文などの難解な文章も、論理的に図式化し、筆者の主張や結論を論理的に読み取る力を育成していきます。また、今後のLTTでは、「自分の考えを整理して論理的に伝える力」を育成していく予定です。

私は、「アクティブ・ラーニング」が最終的に目指す力は「論理力」ではないか、と考えています。本校では、全ての教科で「論理力」の育成を目標としているところです。

この「論理国語」の授業の研究・開発が、本校だけでなく、「日本の教育の未来」に貢献できるのではないかと、たいへん期待しています(^_^)。

